

## 2年任期の会長就任にあたって

——ヒューマンネットワークを創り 前進しよう——

中 村 洋

昨年の秋、日本分析化学会にとっては初めての経験である、代議員による2年任期の会長選挙が行われ、2009年度と2010年度の会長を務めさせていただくことになりました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。会長候補者としてのマニフェストは「ぶんせき」昨年の11号に譲り、ここではそれと重複しない事柄を中心に所信を述べさせていただきます。さて、アメリカのサブプライム・ローンに端を発した金融不況は日本経済にも大きな打撃を与え、本会の2008年度の収支決算は約2,000万円の赤字になる見込みと聞いております。2009年も世界と日本の経済不況が好転する望みがないとの観測が専らであり、このような時期に本会の舵取りを任せられましたので、難局を乗り越えるには相当に思い切った施策が必要と思われる。総論的には、可能な限り無駄な支出を抑える一方、できるだけ多くの収入を確保することしかありません。前者については、これを徹底すると会員の士気と活動意欲を低下させる弊害が生まれますので、まずは後者に軸足を置きながら理事会で智恵を絞ってみたいと考えております。本会における最大の収入は会費収入ですが、他学会と同様、18歳人口の減少と経済不況により1991年をピークに会員数の漸減傾向が続いています。この春、会員拡充委員会を改称して新たに発足した会員委員会（田中龍彦委員長）の奮闘に期待するところです。現在、広告費は会費収入に次ぐ収入源ですが、最盛期には1億円を超えていた額が2008年度には4,000万円という具合に経済状況に依存しますので、その比重を徐々に減らして行く努力が必要です。広告費の落ち込みをカバーし、将来的には会費収入に次ぐべきものとして、技能試験、講習会、標準物質、出版など各種の社会貢献事業による収入があります。昨年12月1日より新公益法人制度が施行され、本会は2013年11月30日までの5年間に公益社団法人あるいは一般社団法人に移行せねばなりません。本会の公益社団法人化を見据えたとき、一般市民を対象とした社会貢献活動は積極的に推進すべき事業であり、本会が社会に広く認知される所以ともなましよう。標準化と資格認定制度が社会に浸透し始めた今、理工系学会の中でも本会はその流れに最もマッチした位置にあります。何故なら、本会は理工農医薬の学問領域と対応する業界から構成されるモザイク構造をしているため、広い分野で人材の確保が可能であり、また科学の基盤となる計測のプロを多数擁しているからです。取り敢えずは、主要な分野で本会固有の資格認定制度を確立し、いずれ必要とあらば国家資格・認定と繋げることを目指したいと思っております。

残念ながら、上記の構想は2年では基礎を作るだけ

で精一杯であり、実現にはもう少し時間が掛かります。その間、本会諸事業費の削減をお願いせねばならない局面があるのではないかと危惧します。そんな場合も想定し、会員の皆様の士気が落ちぬよう、あらかじめなんらかの工夫が必要です。ピンチのときこそ、会員が力を合わせ、智恵を出し合って協力できる絶好のチャンスではないでしょうか。不景気には人間関係と人情で対抗するのに限ります。例えば、現在本会の会員は支部に属していますが、役員以外は互いに顔を合わせることもほとんどないのが現状です。そこで、会員はまず現住所または勤務先の都道府県支部に所属し、さらに従来のブロック支部に所属する仕組みにしたらいかがでしょうか。都道府県別では地理的・人口的に大きすぎる場合には、高校野球の出場枠（南北海道/北北海道、東東京/西東京など）や東京都の区（特別区）のように更に細分化する工夫が適当かも知れません。いずれにしても、新組織で従来支部が行っていたものと類似の活動を行うことができれば、組織の規模が小さくなった分、人の交流は何倍も密になりますので、地区の活性化、会員拡充などには大いに役立つだろうと期待されます。更に、本会会員の交流を一層促進するため、人生談話会（仮称）を設けてはどうかと考えています。現在、本会には13の研究懇談会がありますが、人生談話会はテニス、旅行、写真、料理、囲碁、将棋などの同好の会員が集い、会員相互の親睦と情報交換を図りつつ、人生を謳歌しようとするものです。例えば、年会・討論会前日に開催される俗称T部会には、延べ200名以上が参加していますので、「テニス人生談話会」はすぐにでも発足できそうです。その他、元気が良い若手交流会の向こうを張り、壮年会（50歳代以下）、シニア会（60歳代）、プラチナ会（70歳代以上）など年代別の全国同好会を立ち上げるのも面白いでしょう。また、本会の国際化という観点から、東京コンファレンスとJAIMA Showの一体化による分析科学における東京のアジア拠点化、海外支部の創設と海外会員の獲得などの視点も不可欠です。最後に、分析科学における本会の本来的な責任を果す一環として、学会主導研究によるプロジェクトの申請、若手研究者を対象とする研究補助金の支給、などを主軸とする研究推進もぜひ実現したいと希望しております。以上、会長就任にあたって抱負を述べさせていただきました。在任中はヒューマンネットワークの形成を基軸として、事務局員共々全力で本会の発展に努力する所存でございます。会員の皆様のご理解とご援助を切にお願いする次第です。宜しくお願い致します。